

インフラツーリズムのこれまでの取組と課題



1. インフラツーリズムのこれまでの取組
2. インフラツーリズムに対する意識
3. これまでの取組からの課題

1. インフラツーリズムのこれまでの取組



首都圏外郭放水路

1. インフラツーリズムのこれまでの取組

観光先進国の実現に向けた政府の取組

H19年 観光立国推進基本法

H25年 「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」

→ 「インフラツーリズム」の概念を打ち出す

H28年 「明日の日本を支える観光ビジョン
ー世界が訪れたくなる日本へー」

→ 「魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放」を位置づけ

H29年 「観光ビジョン実現プログラム2017」
(観光ビジョンの実現に向けたアクション・プログラム2017)

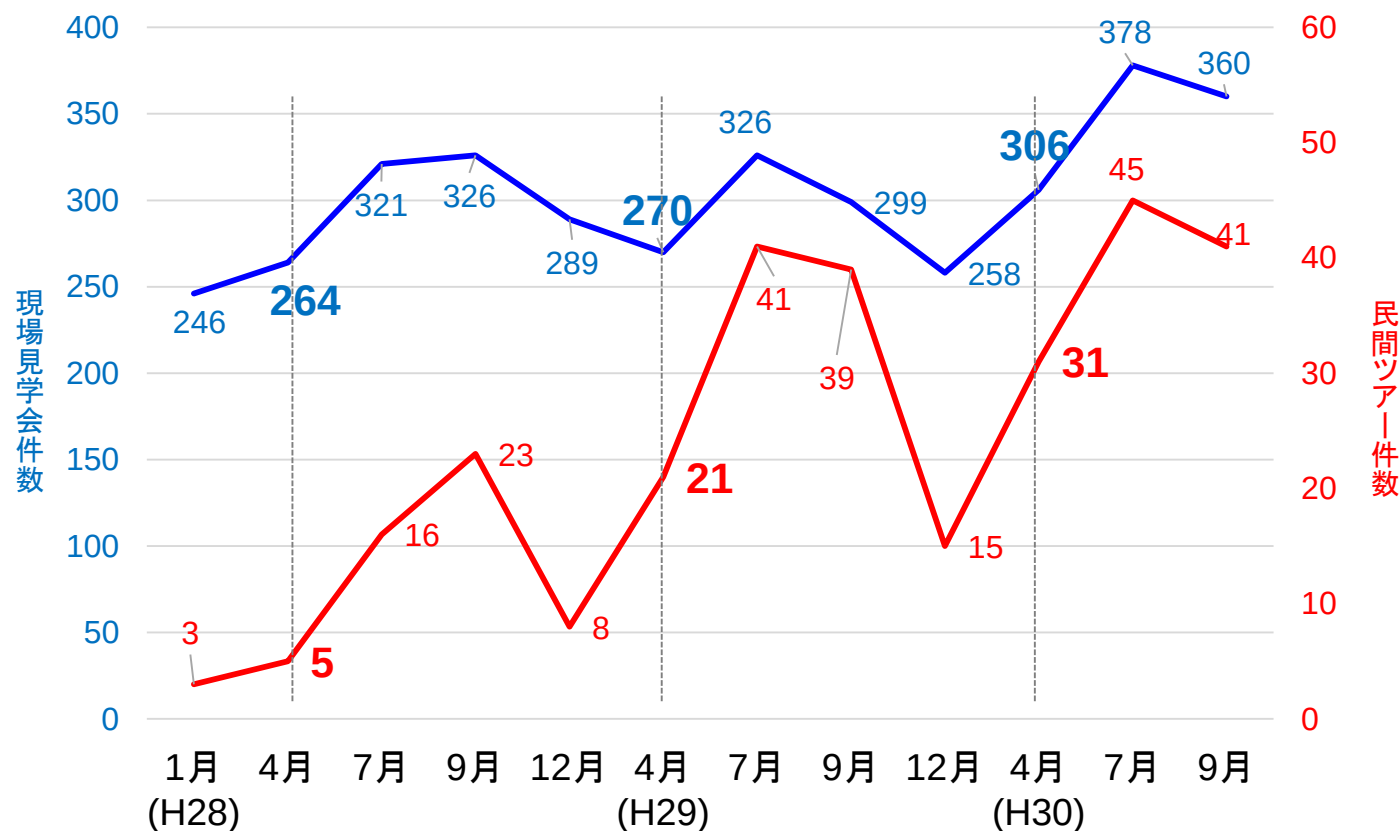
H30年 「観光ビジョン実現プログラム2018」
(観光ビジョンの実現に向けたアクション・プログラム2018)

→ 「魅力ある公的施設・インフラの更なる公開・開放」に向けた重点施設・インフラを掲載

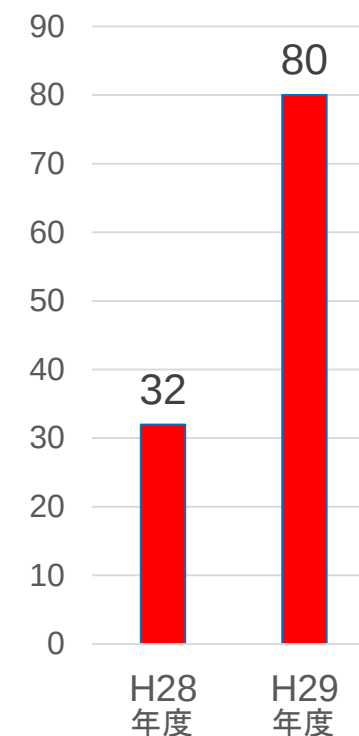
1. インフラツーリズムのこれまでの取組

- 国土交通省の取組として、H28年1月にポータルサイトを開設し、四半期毎の旬なツアーを公表。
- 旅行会社等と施設管理者が調整し、民間が主催するインフラツアーが年々増加。

インフラツーリズムポータルサイト掲載件数



民間主催ツアー件数



1. インフラツーリズムのこれまでの取組

○これまで、インフラツーリズムとして取り上げてきた施設分類。(H27～H30)

インフラ施設	インフラツーリズムとして捉えてきた施設	その他の施設等
・道路	道路、橋梁、トンネル、街道、サイクリング道 等	道の駅 道の駅 川場田園プラザ 約120万人
・河川	堤防、水門、閘門、堰 等	
・ダム	ダム 等	
・砂防	砂防ダム 等	
・海岸		
・下水道	下水処理施設、管路施設 等	
・港湾	港内クルーズ、工場夜景、緑地広場、旅客乗降施設 等	クルーズ船、みなとオアシス みなとオアシス横浜港 約226万人(H28年度)
・空港	展望施設、整備工場見学 等	飛行機
・鉄道		駅舎、車両
・自動車道	橋、トンネル 等	
・航路標識	灯台、信号所 等	
・公園		国営公園 全国で約3,898万人 (H28年度)
・住宅		
・官庁施設		
・観測施設		

1. インフラツーリズムのこれまでの取組

- 全国のインフラツアーを紹介するインフラツアーパネルを作成し、パネル展等を開催。(H27～)
- テーマ毎に分類し、一般の方にわかりやすいよう工夫。(9分類、約100施設)

テーマ		
A.	風物詩を彩る	長年伝わる祭りや行事は地域の歴史や文化の表れ、風物詩に彩りを添えるもの。
B.	歴史的遺産	歴史的・文化的な価値が認められているもので、日本や地域の歴史や文化を学べるもの。
C.	年に一度だから楽しい	年に一度しかない祭りやイベントを支えているもの。
D.	観光名所	観光名所になっているもの。
E.	アイデア勝負	大胆なアイデアを取り入れたもの。
F.	今が旬です！	タイミングを逃すと二度と見るできない建設現場。
G.	地域に根付くインフラ	身近にあるインフラを地域の工夫で財産にしているもの。
H.	レアもの・秘境・再発見	なかなか来訪できない、意外なところにあるもの。
I.	いっぱいお勉強	インフラを学習するもの。

1. インフラツーリズムのこれまでの取組



A. 風物詩を彩る 笛吹川



B. 歴史的遺産 船頭平閘門



D. 観光名所
境港(ベタ踏み坂)



F. 今が旬です！
相馬福島道路



G. 地域に根付くインフラ 天ヶ瀬ダム



H. レアもの・秘境・再発見 六甲砂防



C. 年に一度だから楽しい 知床横断道路



E. アイデア勝負 津軽ダム

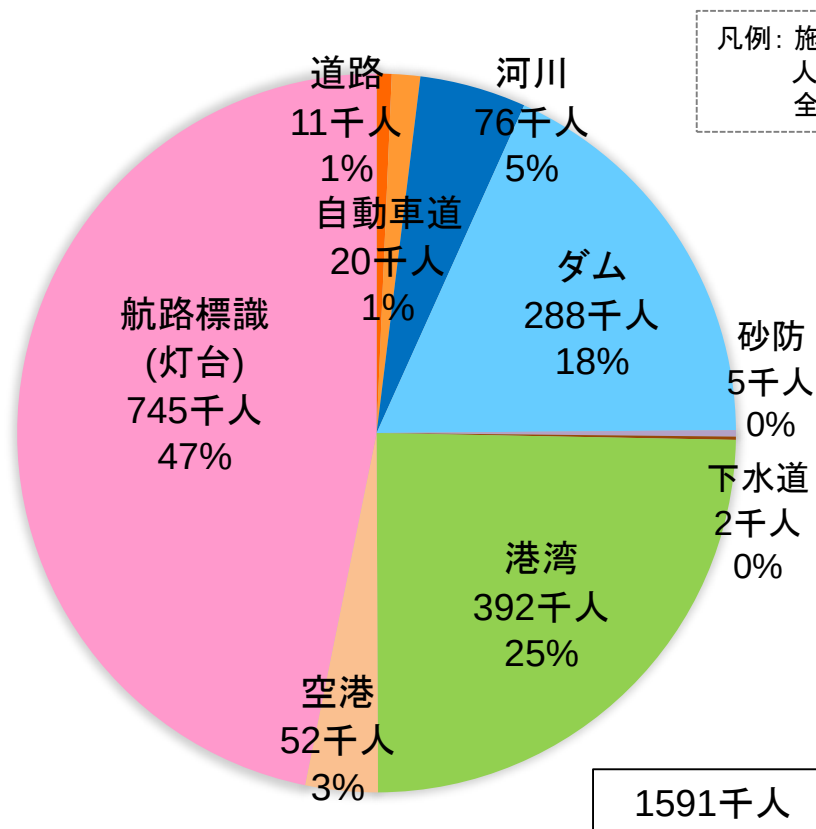


I. いっぱいお勉強 桜島国際火山砂防センター

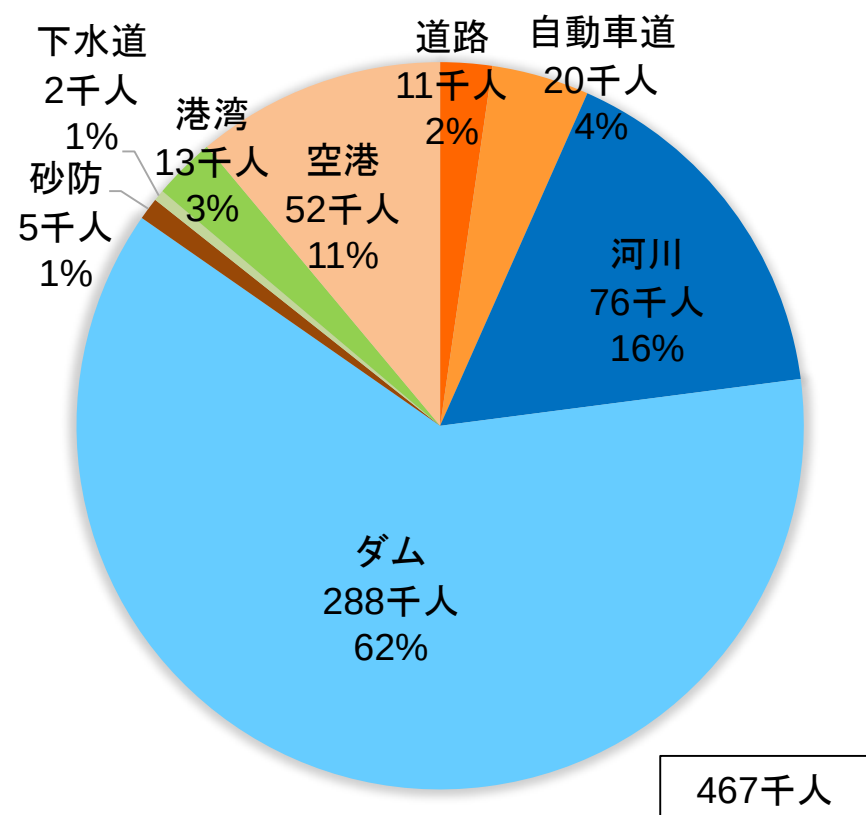
1. インフラツーリズムのこれまでの取組

- ポータルサイトで取り上げた施設での見学者は、年間約160万人（H29年度）。
- なかでも灯台、湾内クルーズが約112万人で、既に観光と一体となって運用されている。
- 灯台及びクルーズを除く施設見学者数は、年間約50万人。

施設見学者数(全体)



施設見学者数(灯台・湾内クルーズ除く)



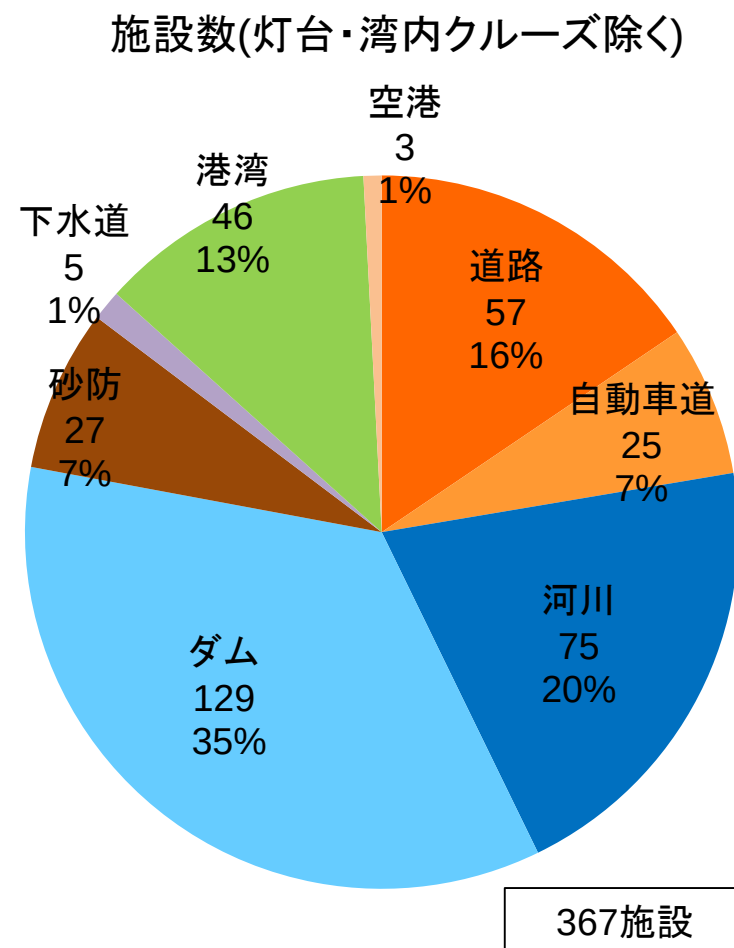
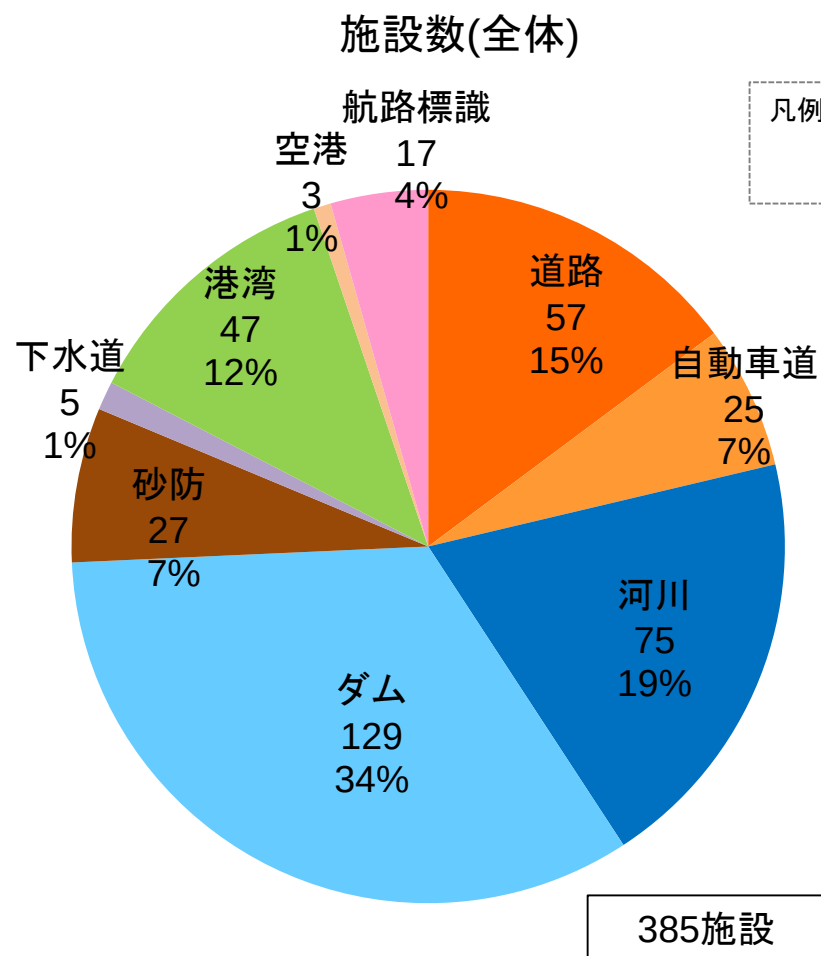
※ポータルサイトに掲載している施設の見学者数を集計。

※現場見学会参加者、ダム等のイベント参加者を目視カウントなど、施設毎に集計方法が異なる

1. インフラツーリズムのこれまでの取組

○ポータルサイトで取り上げた施設分類は、河川やダムなどの河川系が約半数を占める。

○既に観光と一体となって運用されている灯台は17施設、湾内クルーズは1施設。



※民間ツアー数と現場見学会数の合計(重複カウントなし)

2.インフラツーリズムに対する意識



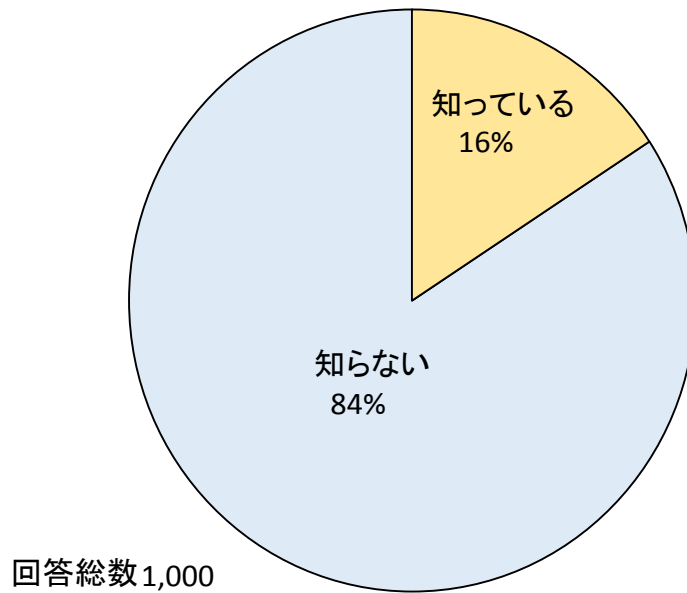
ハツ場ダム

2.インフラツーリズムに対する意識（H30年7月）

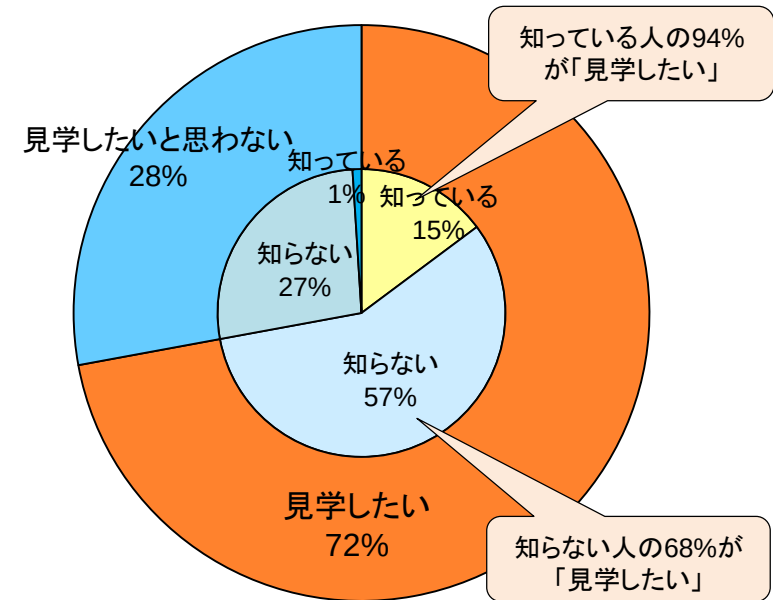
○WEBアンケートにより、インフラツーリズムの認知度を調査。

○インフラツーリズムを知っている人は16%、見学したい(興味ある)人は72%。

「インフラツーリズム」という言葉を知っているか



インフラ施設を見学したいと思うか



○対 象 : 1,000人の一般市民対象

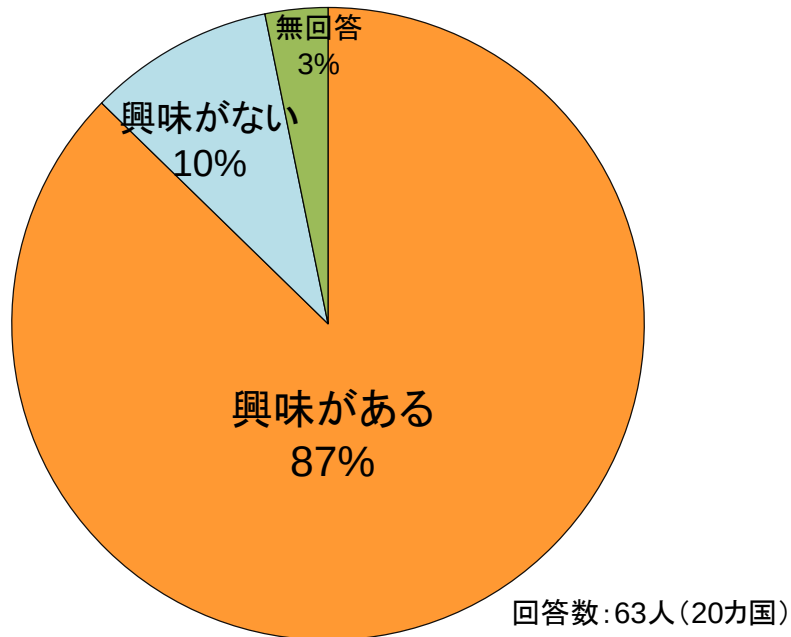
○対象者 : 東京23区と大阪市は200人、主要都市(札幌市、仙台市、新潟市、名古屋市、広島市、福岡市)各100人

○H30年7月実施

2.インフラツーリズムに対する意識（H30年7月）

○訪日外国人が多数訪れる観光案内所で、多言語に対応したスタッフがヒアリング調査。

○インフラツーリズムに興味がある(行ってみたい)人は87%。



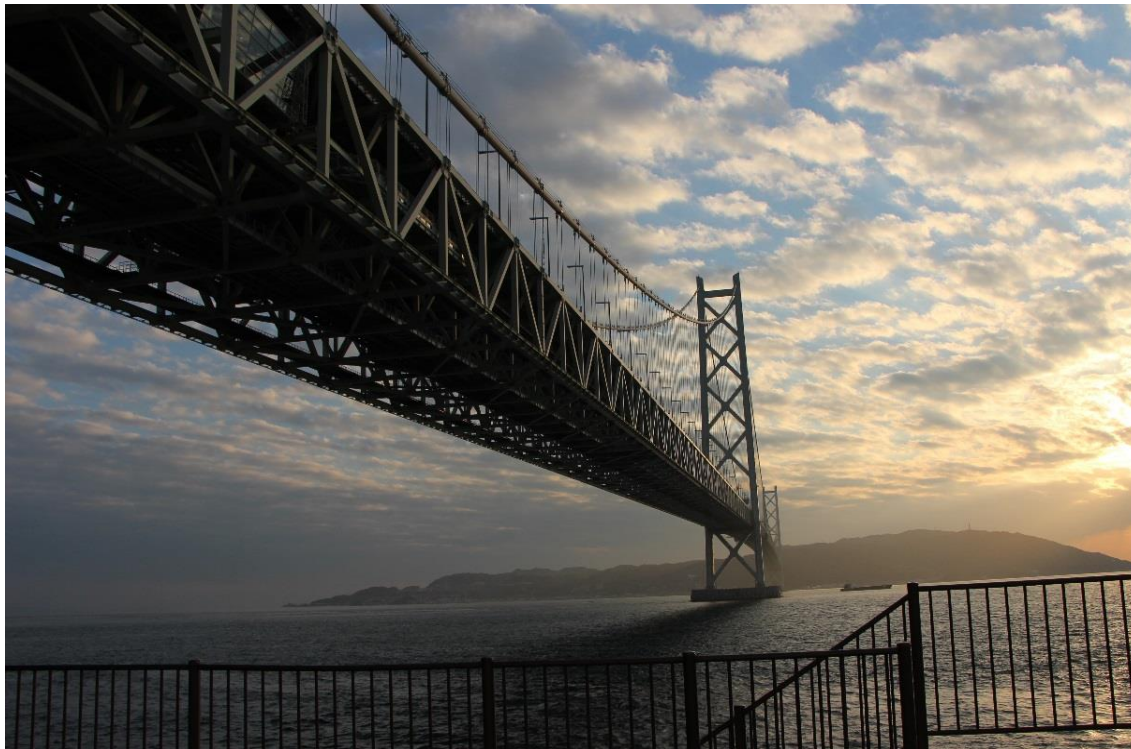
○場 所 : 東京駅最寄りのKITTE地下1階「東京シティアイ」

○対 象 : 訪日外国人からヒアリング

(アメリカ、台湾、オーストラリア、中国、香港、シンガポール、ミャンマー、イギリス、フランス、スペイン、ポルトガル、韓国、タイ、フィリピン、ドイツ、スウェーデン、ニュージーランド、チェコ、フィンランド、メキシコ)

○H30年7月実施

3.これまでの取組からの課題



明石海峡大橋

○アンケート調査や観光ビジョン等から、インフラツーリズムをより拡大するため「広報周知」「施設の見せ方」「地域との連携」「持続性の確保」が整理すべき課題。

(1) インフラツーリズムの拡大に向けた課題

1. 広報周知

2. 施設の見せ方

…国内、インバウンドへの対応

3. 地域との連携

…地域の受入体制(インバウンドも含む)、活用提案、民間ツアーの増進

4. 持続性の確保

■WEBアンケート調査、
インバウンドヒアリング調査 等

■「観光ビジョン」に示す方向性

- 観光資源として積極的に活用し、地域振興を図る
- 民間と連携してサービス内容を充実させた旅行商品化
→ 地域が主体となった民間ツアーの増進
- インフラ施設を観光資源と捉える機運を醸成

3.これまでの取組からの課題②(施設管理者の課題)

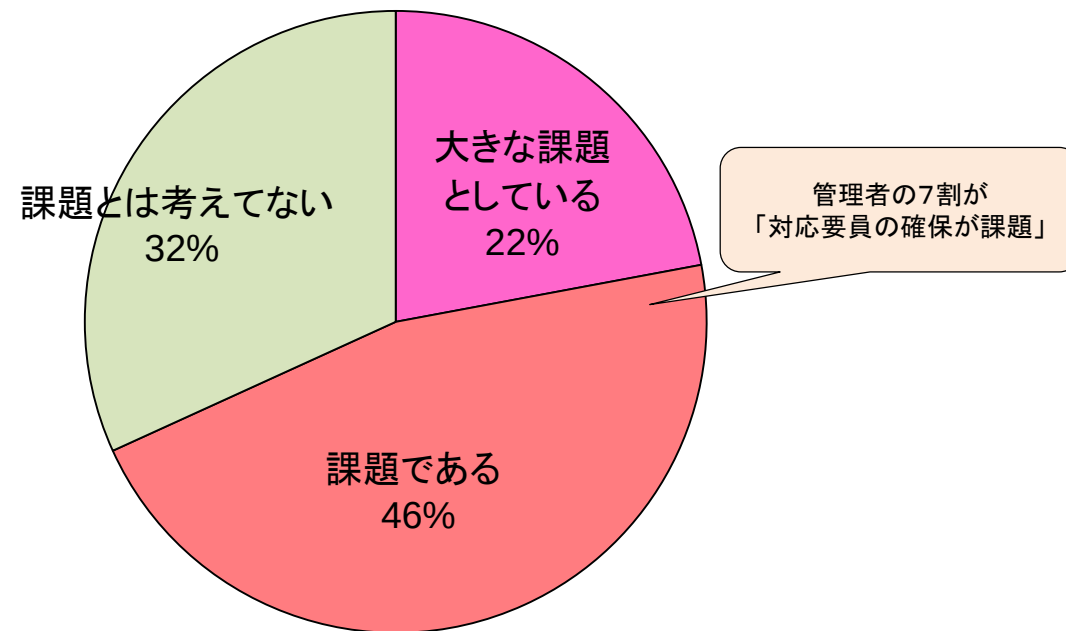
○一方で、現状のインフラツーリズムの取り組みの中でも、受け入れ側である施設管理者へのアンケートから「対応要員」「安全性」「受入環境」が課題と認識。

○インフラツーリズムを拡大するにあたり、対応要員の確保は課題として更に顕在化する。

(2) 管理者側からの課題

対応要員の確保が課題と認識している施設管理者の割合

1. 対応要員の確保
2. 参加者の安全性の確保
3. 受入環境の整備
(トイレ、駐車場、安全施設、アクセス 等)



回答数349

※施設管理者アンケート調査(H30.7月実施)
(灯台・湾内クルーズは除く)

3.これまでの取組からの課題

○本懇談会で議論いただきたい論点の整理。

■現状の課題

(1)インフラツーリズムの拡大

1. 広報周知
2. 施設の見せ方
3. 地域との連携
4. 持続性の確保

(2)施設管理者の課題

1. 対応要員の確保
2. 参加者の安全性の確保
3. 受入環境の整備

「観光ビジョン」に示す方向性

- 観光資源として積極的に活用し、地域振興を図る
- 民間と連携してサービス内容を充実させた旅行商品化
→ 地域が主体となった民間ツアーの増進
- インフラ施設を観光資源と捉える機運を醸成

○インフラツーリズムを、工事現場の見学会に留まらず、地域の観光資源として積極的に活用し、地域が主体となった民間ツアー・旅行商品化を促し、地域振興を図る。

インフラツーリズムの拡大に向けての論点を整理

- ・認知度アップ
- ・各施設のレベルアップ
- ・地域との連携

等

3.これまでの取組からの課題

○インフラツーリズムの拡大に向けた論点。

問題意識①: インフラツーリズムの認知度は低く、集客が多い施設も限定的である。

論 点①: 広報を強化し、全国各地でインフラツーリズムの好事例を増やすには、どのような取り組みが必要か？

問題意識②: インフラツーリズムとして活用している施設には、様々な種類、段階、規模のものがある。

論 点②: 各施設をそれぞれレベルアップさせるために、手引きを作成する場合、どのような項目を盛り込むべきか？

問題意識③: これまでのインフラツーリズムは、施設単体での取り組みが中心であり、地域への波及効果が少なかった。

論 点③: インフラツーリズムを地域の観光資源として活用していくためには、どのような取り組みが必要か？